

福島原子力事故の調査報告書をまとめました

- ◆ 今回の事故により、地域の皆さまに大変なご迷惑とご心配をおかけしておりますことを、心より深くお詫び申し上げます。
- ◆ 当社はこれまで、原子力災害に対するリスクの低減に、様々な観点から取り組んでまいりました。しかしながら、今回の事故では、史上稀に見る津波の影響により、事故対応の設備がほぼ全て機能を喪失しました。また、事故対応の体制・手順書等も、それらの設備が使用できることを前提としていたために、現場では臨機の対応を余儀なくされて困難を極め、結果的に1～3号機の炉心損傷を防ぐことができませんでした。
- ◆ 今回の津波に実際に遭遇した今、当社は事前の備えが至らなかったことを真摯に反省するとともに、得られた教訓をもとにした対策を着実に実施してまいります。

福島第一原子力発電所の事故の経過

津波襲来

建屋への浸水

津波により電源・海水系除熱機能がなくなり、ほぼ全ての安全機能が喪失

機器の動作状態が不明かつ劣悪な作業環境の中、安全機能を回復できず炉心損傷

水素爆発と放射性物質の環境への放出

柏崎刈羽原子力発電所における対策

敷地への浸水低減

- ・防潮堤（堤防）を設置



1～4号機側防潮堤（堤防）工事

建屋の浸水防止

- ・防潮壁・防潮板を設置



1号機防潮壁・防潮板

機器の浸水防止

- ・重要機器エリアを水密化



1号機の水密扉

電源・除熱機能を喪失した場合でも、炉心損傷を防止

- ・消防車、電源車、可動式熱交換器設備、ガレキ除去設備、緊急用分電盤、軽油地下タンク、貯水池を設置



可動式熱交換器設備の試験運転



貯水池設置工事

運用面での対策

- ・想定と異なるプラント状態でも柔軟に対応できる手順の作成
- ・複数プラントの同時被災に対応できる体制とインフラを整備
- ・必要な技能・知識を付与する教育と事故に対応できる訓練の継続的な実施（総合訓練5回、個別訓練約80回実施済）



緊急時訓練（緊急時対策室）



電源車操作訓練

炉心が損傷した場合でも、水素爆発を防止、放射性物質の放出低減

- ・トップベント設備による建屋内の水素滞留防止
- ・格納容器ベントの信頼性向上



1号機トップベント設備